

第1回地域連絡会ダイジェスト

第1回地域連絡会を開催しました。

両国地域 A～D エリアを横断して情報交換を図る地域連絡会が開催されました。第1回地域連絡会では、各エリア懇談会でいただいたご意見やまちへの思いの共有、またこれからの取組に向けての意見交換を行いました。

開催概要

日時：平成26年11月27日（木）18時30分から20時

場所：国際ファッションセンター 112会議室

出席者：江戸東京博物館、NPO 法人隅田川・江戸文化観光振興会、東京水辺ライン、両国一～四丁目町会、亀沢一・二丁目町会、立川一丁目町会、北斎通りまちづくりの会、立川菊川まちづくり研究会、東京東信用金庫、JR 東日本千葉支社、都営大江戸線上野御徒町駅 計17名

アドバイザー：大下先生（帝京大学経済学部観光経営学科長・教授）

事務局：墨田区都市計画課、観光課 計6名

参加者からのご意見

まちの顔づくり に関するご意見

- ・エリア懇談会では、「江戸文化、相撲、水辺の3つが両国の顔」という意見が出ていた。
- ・まずは、まちのイメージが目に見えるまちのつくり方をしていくとよいのではないかな。
- ・地域と鉄道との関わりはとても大切だと思う。
- ・水辺の活用・舟運観光の活性化が進んでいくとよいと思っている。
- ・両国地域オリジナルのおみやげができるとうよいのではないかな。

エリアを横断した取組 に関するご意見

- ・情報誌など、両国地域共通の情報発信ができるとうよいのではないかな。
- ・例えば水辺でのイベントと地域のイベントのタイミングを合わせるなど、両国を訪れるといつでも賑わいがあるという雰囲気をつくっていけるとよいのではないかな。
- ・地域の歴史や物語を通して、連携した取組ができるとうよい。
- ・菊川駅と両国駅の間の地域資源を巡るまち歩きなどができるとよいのではないかな。

まち歩きのしかけづくり に関するご意見

- ・ すみだ文化ゾーンなど、美術館・博物館や多くの地域資源をいかしたネットワークをつくっていきたい。
- ・ 相撲を観るために両国を訪れた方がまちの中を巡ってくれるようになるとういのではないか。
- ・ 地域に点在する相撲部屋の朝稽古が見られるようになるとういのではないか。

外国人旅行者も安心して楽しめるまち に関するご意見

- ・ 外国人旅行者も安心して楽しめるように、外国人旅行者が利用しやすいインフォメーションセンターなどができるとよいのではないか。
- ・ 外国人旅行者向けのバックパッカー宿が増えてくるのではないか。観光情報に加えて、日本独特のマナーなどについても、伝えられるとういのではないか。

地域コミュニティと観光まちづくり に関するご意見

- ・ イベント開催時に、地域の方々の参加を促す工夫をするなど、配慮することが必要ではないか。
- ・ 文化や歴史をいかしたまちづくりは、住んでいる方々にとっても魅力的に映り、まちを楽しめるようになるのではないか。
- ・ 隅田川テラスの「花守さん花壇」のように、地域のみなさんの活動の場が広がることで魅力が高まっていくのではないか。
- ・ 北斎通りでは、景観まちづくりに取り組んでいる。これからのまちづくりに地域住民のご意見をどう反映していくか考えていくことも大切なことだと思う。

まちの記憶、地域資源 に関するご意見

- ・ 学生のとて、両国公会堂で写生大会を行った。エリアを超えて、幅広い年代での共通した思い出だと思う。
- ・ 両国公会堂、昔の区庁舎、両国駅舎の3つの建物は、両国を代表する古い地域資源だったと思う。
- ・ D エリアには、討入りに向けて堀部安兵衛が潜んでいた場所、相撲部屋などの地域資源がある。
- ・ 立川では、東京都現代美術館の取組で、若い海外アーティストが住んで、作品づくりをしている。
- ・ 隅田川テラスはジョギングしている人が最近とても増えている。

今後の取組に向けてのアドバイス(大下先生より)

観光まちづくりの3つのポイント

その1 観光まちづくりの先進モデルに

観光(ソフト)と都市計画(ハード)を一緒に進めていく観光まちづくりは画期的な取組である。両国観光まちづくりランドデザインを地域の中で育ていき、使い勝手のよいように磨きをかけていただきたい。

その2 暮らしと賑わいの両立で地域の魅力を高める

適度な集客を考えながら、最終的に地域ブランドの向上につながるようにしたい。暮らしというものをベースに、その上に賑わいがあり、そして最終的に地域のブランド力を高める。みなさんのご協力をいただき、地域の個性を引き出していただければよいと思っている。

その3 地域性をいかして連携する

各エリアの個性を磨いていき、エリア間の共通の地域資源をテーマとした取組や、全エリア共通の地域資源をテーマとした取組など、地域連携のきっかけづくりとしていただきたい。

地域特性をいかす3つのポイント

その1 鎮魂のまち両国、防災をキーワードに

外国人の間では、東日本大震災のときの日本の助け合い精神の印象が強い。「安心安全」と「鎮魂」を共通するテーマし、「防災」をキーワードとするとよいのではないか。暮らしの安心安全、防災の観点で、地域住民といっしょに取組めるイベントなどから広げていくとよいのではないか。

その2 まちの魅力で来訪者を惹きつける

まちの魅力で人を集めれば、自ずとまちの利便性を上げる周囲の動きが出てくるものだ。まずは、地域主体の取組の中で、まちに人が賑わう方法を考えていくとよい。そういった中で、地域と行政の協働の関係性を築いていくとよい。

その3 拠点と拠点の間をいかして賑わいをつくる

駅と駅との間の適度な距離は、賑わいを生み出す。拠点と拠点の間を生かしてプラスに働かせるということ。イベントや災害時対応の側面でも、一極集中による混乱を避けられるなど、決して不利ではない。地域の知恵でマイナスをプラスに引っ張っていけないのではないか。